

(Ⅳ－34) D E M A T E Lによる佐渡観光の諸問題の構造化

長岡工業高専 学生員 村田俊雄

長岡工業高専 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

オートキャンプブームや絵葉書の通過型観光から体験型観光への対応など観光ニーズの多様化により、観光地を取り巻く環境も変化しつつある。本研究で対象としている佐渡地方においては近年の観光客の伸び悩みや冬季間の観光空洞化と、それに伴う雇用問題、更に夏季に集中する交通問題など様々な問題が顕在化している。

本研究では佐渡観光の現在の問題を整理し、その結果に基づいて問題の構造化を図り、今後の佐渡観光振興のための基礎資料とすることを目的とする。

2. 研究概要

本研究では「佐渡観光」の抱える問題点の実状把握と問題点の構造化のために以下に示す3種類の調査を実施した。

①佐渡地方の観光入込客数の調査

佐渡への渡航者数調査（年別・月別・目的別、佐渡汽船㈱より提供）と、佐渡島内における定期観光バスルートと利用人数の把握（新潟交通佐渡㈱より提供）。

②市町村の観光担当者へのヒアリング調査

佐渡地方10市町村の観光担当者を対象としたヒアリング調査（平成7年8月に実施）。調査対象は観光のための道路事情、冬季間観光、路線バスの実態など10項目からなる。

③問題構造化のためのDEMATEL調査

ヒアリング調査で得られた結果を基に問題点の構造化を行う。構造化手法としてはDEMATEL法を採用した。調査対象は佐渡地方10市町村の観光担当者とし、調査項目は全部で20項目から構成され、各項目の重要性和他の項目との関連性について回答してもらった。

3. 佐渡観光を取り巻く問題点の構造化

(1) D E M A T E L法による問題点の構造化

観光担当者を対象としたヒアリング調査の結果を基に、表－1に示すようなDEMATEL調査に用いる質問項目を設定した。これら観光に係わる問題間の構造を分析し、DEMATEL構造図を作成する。

(2) クラスター分析による市町村の類型化

10市町村全てについて問題の構造化を図った後、各市町村別に得られた、影響度・被影響度・重要度をパラメータとしてクラスター分析を行う。表－2は、クラスター分析の結果をデンドログラムとして図示したものであり、大きく3つのグループに分けることができる。「両津」（グループ1）、「佐和田・小木」からなる地域群（グループ2）、「赤泊・新穂ほか6町村」からなる地域群（グループ3）である。

(3) 地域群における問題の構造化

各グループの平均的な構造化の結果を図－1と2に示す。「強」は実線で、「中」は一点鎖線で表し、それ以下の表記は省略した。尚、縦方向は重要度の高い項目を上位に、低い項目を下位に図している。左右の関係は特に意味を持たない。

グループ1では、「⑨新たな観光資源開発」を最上位にし、「⑥各種イベント開催」「⑦体験型観光施設整備」「⑩地域の伝統文化・芸能の保護と育成」「⑫観光に対する地元住民の理解不足」「⑪冬季間の従業員の雇用対策」などを中心として半数以上の項目が中位より上に位置している。項目間の関係としては、「地場産業製品開発」や「観光客に対する地元住民の理解」などが「新たな観光資源開発」へ直接結びつくか、「体験型観光施設整備」→「冬季間の従業員の雇用確保対策」という流れになった。

グループ2では、「⑫地場産業振興のための後継者育成」を最上位にし、「⑭県外への観光PR対策の立ち後れ」「①佐渡一周道路整備の立ち後れ」などの影響関係が注目される。項目間の関係としては、「体験型観光施設整備」または「冬季間の従業員の雇用対策」が「地場産業製品開発」→「地場産業振

興のための後継者育成」に結びつく流れになった。

グループ3では、上位に関してはグループ1と同様ながら、「①佐渡一周道路整備」「②大型観光バス乗り入れのための道路整備」「③夏季に集中する自動車交通による交通渋滞対策」などが、他ではみられない強い結び付きを示した。項目間の関係としては、「佐渡一周道路整備」→「新たな観光資源開発」もしくは「各種イベントの開催」→「県外への観光PR対策」が「冬季間の観光客増加対策」に結びつく流れになった。

次に各グループの比較を行う。グループ1が他の2つのグループと比較して特徴的なのが半数以上の項目が中位より上に位置している。これは両津市が佐渡の表玄関であり、港湾・道路・宿泊施設等が一通り整備されているためと思われ、多くの項目で重要性が高いことを示している。

グループ2において観光PRや一周道路の整備が挙げられているのは、佐和田町が観光資源に乏しいことや、小木町が定期航路を持つとはいえ周辺市町村のアクセス能力に乏しく、大型車通過容易な道路が望まれているためと思われる。

グループ3は最上位に関しては1と同様であるが、他では見られない強い結びつきは、総じてこの市町村の道路事情の地域性を表しているものと思われる。

4. まとめ

本研究の結果以下のようなことが明らかになった。

(1) 構造化の結果より、グループ1は若干の特殊性を持つものの、グループ2とグループ3とは上位に位置する項目に差異が見られた。しかしながら影響度が高い項目をみると、「①佐渡一周道路整備の立ち後れ」「⑦体験型観光施設整備の立ち後れ」が挙げられ、この点においてはグループ2とグループ3は共通の問題を抱えていることが判る。

(2) グループ1の結果より、他のグループにない特色として「⑯本土との交通対策の立ち後れ」の影響があり、本土との交通整備は、両津市はおろか佐渡地方全体の問題となってくるので、特に重要な課題であると思われる。

尚、その他の詳細については講演時に報告する。

本研究の実施に当たり各機関に資料の提供と御協力を得た。本論文を以って深甚なる謝意を表す。

表-1 質問項目

1. 佐渡一周道路整備の立ち後れ
2. 大型観光バス乗り入れのための道路整備の立ち後れ
3. 夏季に集中する自動車交通による交通混雑対策の立ち後れ
4. 定期観光バスの観光ネットワークの片寄り
5. 夏季観光客のための宿泊施設の不足
6. 各種イベント開催の立ち後れ
7. 体験型観光施設整備の立ち後れ
8. 新たな観光資源開発の立ち後れ
9. キャンプ場整備の立ち後れ
10. 伝統文化、芸能の保護・継承のための対策の立ち後れ
11. 地場産業製品開発の立ち後れ
12. 地場産業振興のための後継者育成の立ち後れ
13. 自然環境保護と観光開発との調整の立ち後れ
14. 県外への観光PR対策の立ち後れ
15. 観光対策に対する市町村間の連絡調整の立ち後れ
16. 観光開発に対する行政支援
17. 冬季間の従業員の雇用確保対策の立ち後れ
18. 冬季間の観光客を増加させるための対策の立ち後れ
19. 本土との交通対策の立ち後れ
20. 観光客に対する地元住民の理解不足

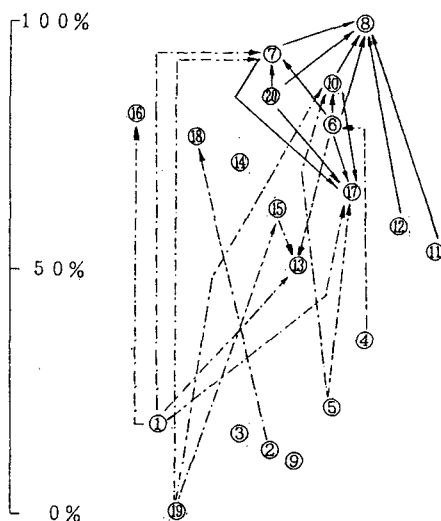


図-1 グループ1

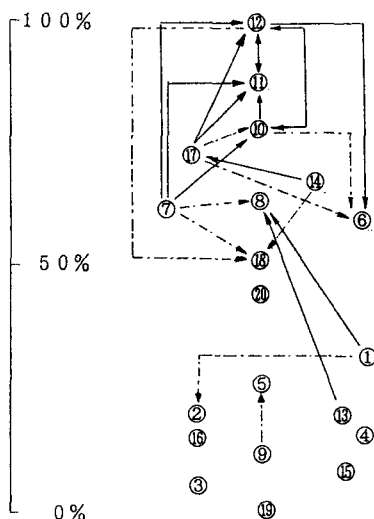


図-2 グループ2